

立憲民主党

The Constitutional Democratic Party of Japan

新型コロナウイルス「第3波」から地域医療をまもるために

◆「世界一厳しい」原発許可が取消に
 関西電力の大飯（おおい）原発3、4号機の設定許可を大阪地方裁判所が12月5日に取り消しました。

関電の想定した地震動は過去のデータに基づいており、現在、必要な耐震性を満たしていないと裁判官が判断したのです。福島第一原発事故後の「世界一厳しい」新規制基準による許可の取消しは初めてです。

本来ならこの判決は大ニュース！

もしこの判決が確定すれば大飯原発はストップ。現在、新基準をクリアした9カ所16基（稼働中は3基）の原発にも影響します。原子力規制委員会が原発の再稼働を許可した判断が誤りだったことになるからです。

裁判の行方を見極めつつ、地震大国日本の原発政策のあり方を政府に問い直していきます。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川12区（藤沢市・寒川町）
 当選7回、東京大学医学部卒業、
 小児科医、あべともこ子どもクリニック（湘南台）理事長
 現在、内閣委員会・原子力問題調査特別委員会委員

あべともこ
 公式Twitter
 @abe_tomoko

https://twitter.com/abe_tomoko

あべともこ事務所
 公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ 検索

あべともこと共に歩む会後援会
 入会のご案内及びボランティア
 スタッフ募集中！



◆医療崩壊を防ぐための要請
 収束をみない新型コロナウイルス第3波で医療が崩壊した北海道や大阪に、自衛隊から医師や看護師が派遣されました。

医療従事者や病院経営への負担は、日本各地で増すばかりです。

17日に「超党派医師国会議員の会」は、田村厚生労働大臣に申入れをしました。

1. 新型コロナウイルス患者を受け入れている医療機関に対する支援（減収補てん、医療従事者への危険手当や直接的な支援）

2. 地域医療を支える病院・診療所への支援（経営持続が危ぶまれる小児科、耳鼻科などへの減収補てん等）

コロナ患者以外の患者を診る地域医療の破たんも避けなければ命は守れません。



12月17日、厚労大臣申入れ

◆生殖補助医療あり方考える議連発足
 第三者が提供する卵子や精子で生まれる子の父母は誰かを定める民法の特例法が12月4日に成立、翌週9日に早速、「生殖補助医療のあり方を考える議員連盟」（会長：野田聖子衆議院議員）の設立総会が開かれました。

阿部とも子も議連に出席し、障害者当事者が「優生思想」だと訴える「心身ともに健やかに生まれる」という基本理念の削除や、子どものお出自を知る権利を保障するために、当事者や有識者からヒアリングし、公開で議連を開催することを求めました。

衆議院議員 あべともこ事務所 〒251-0025 藤沢市鵜沼石上 1-13-13-1 F
 TEL 0466-52-2680 FAX 0466-52-2681 E-mail: inochi@shonanfujisawa.com

立憲民主党神奈川県総支部連合会 〒231-0012 横浜市中区相生町 4-69-2 F TEL 045-226-2377 FAX 045-226-2378